



★明日に迫った合唱コンクール★

先日「マイバラード」作曲者である聖徳大学音楽学部音楽学科教授の松井さんの記事を目にしました。「中学生の合唱はなぜ聴く人をひきつけ、感動させるのか」という問いに、以下のように答えられています。

「中学生には大人とは違う、この年代にしか出せない魅力があります。自然で屈託のない柔らかさや力強さ、透き通るような響きがあります。そこに生徒たちが一生懸命歌う姿や初々しさ、仲間との結びつきが重なる。いろいろなものが融合して、人の心を動かすのではないのでしょうか。」

教員も感動しますよ。思わず泣いてしまう教員もいます。そこに至るまでのプロセスを知っていますからね。練習に参加することを恥ずかしがっていたり、合唱そのものに興味をもてなかったりする生徒が一生懸命歌っている姿を見ると、『本当に成長したな。』『3年間大変なこともあったけど、ここまで来てよかったな。』と胸が熱くなります。」

最後はこのようなメッセージで締めくくっています。

「これからは多様なルーツや特性をもつ生徒たちが同じ教室で学んでいく時代です。単に上手に歌うだけでなく「世界にひとつしかない合唱」と言えるような、自分たちの個性を生かした合唱を作っていけたらよいのではないのでしょうか。」

生活指導部のたより「前へ」第4号にも、良い合唱を創るために必要な取り組みに「良い人を創る、良い集団を創るために必要なことが多く含まれている」と書かれています。ぜひ読み返してみてください。

★「修学旅行について」の作文★ 「電車移動の中、古池のそば」

C組

僕が修学旅行に行って感じたことは、「新鮮」ということだった。別に、場所が新鮮だったわけではないーむしろ数年前に行ったときとさほど変わってもない。自身の身の置かれた状況、つまり「学年」という単位で行動し、学校の人達に計画通りの行動をしていく、そういう学校行事特有の状況こそが「新鮮」だったのだ。普通、「旅行」というと親しい人で、自由に楽しくやるものだろう。しかし、「修学」旅行となると、話は別になってくる。楽しいという感情は普通の旅同様にある。けれども、その“楽しい”はまったく同じところから、去来するものだろうか。行ってみた限り、その答えは否だ。限りある時間の中、計画の中で編み出す楽しさというのは貴重だ。貴重だからこそ、余計に楽しく感じられて、思い出に残るのだろう。

そうここまで書いてきて、ふと浮かんだ景色というのは、何気ない電車移動の途中であり、天龍寺の古池のそばである。一見、断片的に見てしまえば有象無象のものにすぎなかった。だが、限りあるなかで、厳しい時間設定の中で得られた楽しさの一つであったという事実があるからこそ、貴重で楽しい瞬間に思えるのだ。それでいて、そういった記憶の断片一つ一つをつなぎ合わせたとき、一言で表現できる感情そのものが「新鮮」だったのだ。

★来週の予定

日時	時程	予定
10月5日(月)	50分×6	全校朝会、スクールカウンセラー勤務日 放課後、合唱コン実行委員会
10月6日(火)	50分×5	2校時カット、後期専門・中央委員会 心のふれあい相談員勤務日
10月7日(水)	50分×5	巡回心理士勤務日 心のふれあい相談員勤務日
10月8日(木)	50分×5	4校時カット、後期専門・中央委員会
10月9日(金)	50分×6	第2回進路説明会
10月10日(土)	50分×3	学校公開日、月④⑤⑥の授業
10月11日(日)		
10月12日(月)		スポーツの日